

仕様書

(機種名) 骨密度測定装置

調達物品に備えるべき要件

1	スキャン方式は以下の要件を満たすこと。
1-1	測定方式は、DXA法であること。
1-2	スキャン方式は、鋭角ファンビーム方式またはファンビーム方式であること。
1-3	検出器数は鋭角ファンビーム方式の場合15個以上、ファンビーム方式の場合200個以上有すること。
1-4	全身をスキャンできスキャンの範囲は、概ね1975mm×600mmであること。
1-5	全身撮影時は効率性の観点から、鋭角ファンビーム方式の場合は対象範囲だけを自動追従撮影する機能を有すること。ファンビーム方式の場合は3ラインスキャンでの全身撮影が行えること。
2	X線検出器は以下の要件を満たすこと。
2-1	検出方式はマルチディテクター方式であること。
3	測定については以下の要件を満たすこと。
3-1	PA腰椎正面の測定時間は最速10秒以下であること。
3-2	大腿骨の測定時間は最速10秒以下であること。
3-3	前腕骨の測定時間は30秒以下であること。
3-4	全身の測定時間は標準モードで300秒以下であること。
4	画像処理装置は以下の要件を満たすこと。
4-1	CPUの演算能力は、Intel Corei3と同等以上であること。
4-2	OSはMicrosoft Windows IoT Enterprise 64bit相当以上であること。
4-3	8GB以上のRAMを有すること。
4-4	内蔵、外付けハードディスクを有し、物理的記憶容量はそれぞれ1TB以上を有していること。
4-5	測定結果を外部メディアに保存可能であること。
5	測定・分析用ソフトは以下の要件を満たすこと。
5-1	以下の測定・分析用のソフトウェアを有すること。
5-1-1	腰椎正面、大腿骨、両大腿骨、前腕骨、膝関節、全身骨（体組成計測を含む）、人工股関節の骨密度解析機能を有すること。
5-1-2	大腿骨強度解析機能を有すること。
5-1-3	腰椎側面骨密度解析、胸腰椎計測機能を有すること。
5-1-4	小児の腰椎正面、大腿骨、全身の骨密度解析機能を有すること。
5-1-5	非定形骨折解析(AFF:Atypical Femur Fracture software)を有すること。
5-1-6	海綿骨構造指標(TBS)の解析機能を有すること。
5-1-7	検査レポート作成及び編集するためのソフトウェアを有し、レポートのレイアウトは担当スタッフと打ち合わせの上で決定すること。
5-2	ネットワーク接続はDICOM3.0に準拠しStrageやMWM、MPPS、RDSRに対応していること。
5-3	ノーマルデータ表示（Tスコア、Zスコア、変化率表示）QAの管理機能を有すること。
5-4	過去データの関心領域を一度にコピーすることができ、容易に比較解析ができること。
5-5	生データをメモリしており、再解析が可能であること。
6	モニターは以下の要件を満たすこと。
6-1	24inch以上のLCDカラーモニタであること。

調達物品に備えるべき要件

6-2	解像度は1920×1080以上であること。
7	プリンターは以下の要件を満たすこと。
7-1	レポート出力用のレーザープリンタを1台有すること。
7-2	印刷用紙サイズは、A4サイズであること。
8	その他、以下の要件を満たすこと。
8-1	精度チェック用としてQAファントム1台、腰椎ファントム1台を有すること。
8-2	腰椎正面ポジショナ1台、腰椎側面ポジショナ1台を有すること
8-3	前腕骨ポジショナ及び固定ベルト1式を有すること。
8-4	人工股関節及び膝関節用フットポジショナとポジショナを1組有すること。
8-5	固定ベルト付き大腿骨ポジショナを1台有すること。
8-6	既存のX線骨密度測定装置のデータ移行ができ、更新後も継続して使用可能であること。
8-7	既設PACSとDICOM Strage接続し解析結果を転送できること。
8-8	既設RISとDICOM MWM接続し患者属性情報を取得できること。